

# TUAD IS HERE



●日常中の芸工大  
東北を創造する新たなスタートライン。  
〈東北復興支援機構TRSO〉

TRSOのスタートにあたり、プロジェクトルームが設置されたやまがた芸術学舎には被災地支援活動の成果物が展示されました。被災者の生の声を綴り、大きな写真パネルでその表情を伝える「3.11After Report-あとき僕らは」は、実際に復興会議のメンバーである学生が被災地を訪れ触れた、心の記録。あとき東北の若者たちは、どこで、どんな「心のゆれ」を体験したのか、誠実にありのままに記録する3.11を経験した人々のインタビューです。取材を続けている院生2年の金子正人さん、美術史・文化財保存修復学科4年生の鈴木淑子さん、自身のブログで写真を公開し表現と現実に向かい合う、川村智美さんの声をウェブで紹介します。 [WEB](#)



## 表紙のアート



自分を、君を変えたものとの出会いと、そこからの飛躍をダイナミックに表現。 [WEB](#)

洋画コースの阿部一樹さんが2010年度卒業展に出品した作品「かつて君を変えたものを つか僕が遺すために」は、4年間の学生生活で出会った人や自分の成長が作品イメージに重ねられています。阿部さんは「大事な箱の中で反応と変化が起きて、箱を突き破り翼をもって広い所へ飛び出すイメージ。ずっと外で展示しなかったのが嬉しいです」と、小さな子どもが自分の作品を覗き込んでいる姿に目を細めました。

## g\*gとは

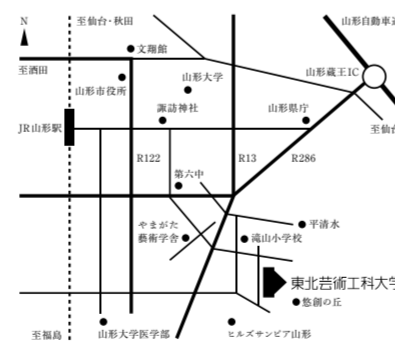
芸工大広報誌のタイトルは「g\*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！このデザインがかっこいい！景観がきれいな！こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならずと芸工大が、「+」より強い「\*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g\*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。広報室では、「g\*g」を置いていただけるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

## 東北芸術工科大学

【芸術学部】文芸学科、美術史・文化財保存修復学科、歴史遺産学科、美術科〔総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸・陶芸・金工)/テキスタイル]   
【デザイン工学部】企画構想学科、プロダクトデザイン学科、建築・環境デザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科、メディア・コンテンツデザイン学科   
【大学院芸術工学研究科】博士後期課程 芸術工学専攻、修士課程〔芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻 仙台スクール〕   
【研究機関】やまがた芸術学舎〔共創デザイン室/東北復興支援機構TRSO〕、東北文化研究センター、文化財保存修復研究センター、こども芸術教育研究センター、デザイン哲学研究所、東アジア芸術文化研究所

g\*g オフィシャルサイト <http://gs.tuad.ac.jp/gg/>

## 大学周辺マップ



東北芸術工科大学 広報誌 g\*g  
2011年7月13日発行  
発行：学校法人東北芸術工科大学  
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5  
東北芸術工科大学 広報室  
TEL:023-627-2246 FAX:023-627-2185  
URL: <http://www.tuad.ac.jp/>  
E-mail: [hello-gg@aga.tuad.ac.jp](mailto:hello-gg@aga.tuad.ac.jp)

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2011



# g\*g

芸術市民と「つ」よに創る  
芸工大広報誌「ジー・ジー」  
Vol.17 2011 SUMMER  
東北芸術工科大学



## 東北の皆さんへの感謝とともに、 次の東北、次の日本、次の世界を作るために。

東北芸術工科大学は今年で開学20周年を迎えました。今年度の新入生は本学と同じ年に生まれた子どもたちです。本学と同じ時を共有し同じように成長してきた彼らを一人も失うことなく、本学で学び始められたことを大変嬉しく思います。東日本大震災の後では、本当に「奇跡」という言葉を思わずにはられません。

今、皆さんに考え見極めて欲しいのは、自分がどこにいるかということです。宇宙が生まれた時から長い長い気が遠くなるような時間を経て、地球に海ができ、陸ができ、生命が生まれ、人類が進化し、先祖となる人同士が会い、今この瞬間に自分が存在することを考えてみてください。それは奇跡です。震災が起きたたった40日後に入学式を迎えられた時に、僕はそう強く感じました。未だに、海の底に、瓦礫の下に、八千人近い同朋が眠っています。親を失い、子を失い、住まいを失い、全ての生活を失った人たちの悲しみが渦巻いています。放射能で自分の土地を追われた人がいます。そのような時に自分が存在し

ている奇跡を自覚し、次の日本を作るにはどうしたらよいか本気で考える「力」にしてもらいたと思います。「東北」の名を冠する本学の役割はますます大きくなっています。自然と共存しながら生きていく縄文の知恵や精神を見直し、歴史や文化に育まれた叡智を理解して新たな世界観を創成する「東北ルネサンス」を興し、これまでの科学や経済に芸術・デザインという見方を加えることが必要です。地球の未来や私たちの生き方がこのままでいいのかを問い直す時期にあって、美しい価値観を内側に貯え、新たな指針を世界に対して示していく時が来ました。「東北」「芸術」と名のつく大学で、芸術、デザインを学ぼうとするのはもはや「単に自分たちが好きなことをする」では済まされません。自己を磨き、学び、しっかりとものを見て、その形、色、姿、光、影の中に潜む真実を掴み、次の東北、次の日本、次の世界のために芸術の創造力を活かしていこうではありませんか。

東北芸術工科大学学長 根岸吉太郎



根岸吉太郎 Kichitaro Negishi  
1950年8月24日生まれ、60歳。東京都出身。早稲田大学第一文学部演劇学科卒業後、74年日活に入社。78年『オリオンの殺意より、情事の方程式』で監督デビュー。その後『遠雷』でブルーリボン賞監督賞、芸術祭選奨新人賞を受賞(1981)する。さらに『雪に願うこと』で、東京国際映画祭のグランプリ、監督賞をはじめとする史上初の四冠を獲得(2006)。2007年の『サイドカーに大』も好評を博した。『ヴィヨンの妻〜桜桃とタンポポ〜』で2009年モントリオール世界映画祭の最優秀監督賞を受賞。2010年に紫綬褒章を受賞。2009年4月から東北芸術工科大学デザイン工学部映像学科教授、学科長。2011年4月1日より東北芸術工科大学学長。



## 東日本大震災を乗り越えて、全学で新たな一歩を。

開学20周年の時と同じくして発生した東日本大震災。

幸いにして、在学生、教職員全員の無事が確認でき、施設の大きな被害もなかった東北芸術工科大学は、東北、そして日本の新しい姿の創造に、積極的に寄与していきたいと考えています。

### 東北ルネサンスの決意も新たに。開学20周年記念式典を挙げる。

5月22日に本学開学20周年記念式典を執り行いました。式典には山形県知事、山形市長をはじめとする本学関係者400名が参加。式典後には、能楽堂「伝統館」にて井上八千代さんによる京舞を披露しました。

今年春に学長に就任した根岸吉太郎学長の挨拶のあと、感



謝状贈呈では、開学時から尽力いただいた方々へと徳山詳直理事長が感謝状を手渡しました。徳山理事長は贈呈の後、「ここにいらっしゃる偉い人にも感謝をしたいが、私が最も感謝をしたいのは、この校舎を20年間磨きおしてくれている掃除のおばちゃんたちです。この美しさがこの大学の真骨頂。これが教育、これが芸術の仕事です」と、心からの感謝の言葉を述べました。また、御礼の挨拶の最後には、北畠山延暦寺から移し分けられた山寺・立石寺の本堂に灯る宝灯が、織田信長によって焼き討ちされた延暦寺を復興する際に再び山寺から延暦寺へと分けられた歴史に触れ、今一度、山形と京都が手を取り合い助け合う必要性を語りました。

来賓祝辞では、山形県知事吉村美栄子氏が本学の発展を祈る言葉を、山形市長市川昭男氏は市長の立場から山形に学生が根づく大学であってほしいとの想いを、それぞれ述べられました。日本私立学校振興・共済事業団理事長河田悌一氏は、東北の中でほとんど震災の被害がなかった山形において、人間力を養い新しい日本の未来を担う学生を輩出する大学へとさらに成長していくことに期待を寄せました。また、式の最後には保護者会(会長 高野英昭)と卒業生が結成する東北芸術工科大学校友会(会長 若林崇)から、東日本大震災で被災した在学生に義援金が贈られました。被災学生が先輩からの支援で卒業し、自らが校友会員として後輩の支援を行う「支援の輪」になるよう、深い絆で結ばれるきっかけにしたいと交友会長は期待を寄せています。また学校法人瓜生山学園などからも義援金が贈られました。



### 義援金・物資支援

被災学生等のため、これまでに多くの方々から支援金や支援物資をいただきました。心から厚く御礼申し上げます。

〈義援金〉

- 校友会様 1,200万円
  - 保護者会様 200万円 ※保護者会様からは他に20周年記念の食堂什器補充として300万円の寄附をいただきました。
  - 保護者の皆様 65,435円
  - 理事・監事・常任顧問
  - 徳山詳直 10万円/古澤茂堂 10万円/坂元徹 10万円/高久正史 10万円/根岸吉太郎 10万円/入間田宣夫 10万円/山田修司 10万円/片上義則 10万円/寺脇研 10万円/熊谷真一 10万円/野村真司 10万円/徳山豊 10万円/本間利雄 10万円/細谷伸夫 10万円/高山克英 10万円/五十嵐直二 10万円/北村誠 10万円/清宮久子 10万円/松尾正城 10万円/遠藤栄次郎 10万円/千歳榮 10万円/大久保義彦 10万円
  - 評議員
  - 小椋秀樹 100万円/佐島仁之 100万円/佐藤洋詩恵 33万円/松平定知 20万円/松本哲男 10万円/宮島達男 10万円/高龍善 10万円/工藤彰 5万円/芳賀幹代 5万円/加藤千明 5万円/安達純子 3万円/結城章夫 3万円/清野伸昭 3万円/峯田義郎 3万円/本谷強 1万円
  - 学校法人瓜生山学園 京都造形芸術大学 3,000万円
  - 名誉教授
  - 馬場雄二 10万円/日原もとこ 10万円/瀧美浩章 5万円/小沢明 5万円/中嶋一雄 2万円/五十嵐治也 1万円/尾形良道 1万円/川野洋 1万円/羽生道雄 1万円
  - 上記以外の方々
  - 井上八千代様 30万円/京都芸術高等学校様 10万円/玉津菊子様 3万円
- 〈物資支援〉  
株式会社ア・ファクトリー様

### 「やまがた芸術学舎」誕生。オープニングイベントを開催しました。

山形市松波にある旧山形県知事公舎が、本学創立20周年記念事業として「やまがた芸術学舎」として生まれ変わり、5月21日にオープニングイベントを行いました。やまがた芸術学舎は、幅広い世代の市民の方々が芸術に親しみ交流できる学びのコミュニティ空間として、また大学が結集・蓄積した最先端の知財を東北の産業や教育の振興につなげる〈創造の結節点〉として機能させることが目的。オープニングイベントでは、今後の運用計画についての説明と記者会見、記念シンポジウム「東北未来塾—東北全土の復興のために」を開催し、一般の方にも公開しました。シンポジウムでは、やまがた芸術学舎運営委員会委員長の千歳栄氏をコーディネーターに、山形大学から結城章夫学長、小山清人副学長を迎え、根岸吉太郎本学学長、宮島達男副学長が、大学や芸術の在り方、目指す東北像を探りながら東北の未来について意見を交わしました。今回の震災、原発事故に関して結城学長は「大自然の力と科学技術の限界を感じた。ものづくり、物流、福祉、医療など社会システムを再考し、生き方や価値観を考え直す歴史の転換期にあると思う。変えたくても変えられなかった部分を、変えられる機会」と述べ、根岸学長は本学と山形大学の連携について「それぞれ

の大学の分野が違うので、自分たちの特色を持ってぶつかり合えば新しいものが生まれる。“スマイルエンジン”では学生、教師同士の触れ合いも増え刺激を受けているようだ」と語り、ボランティア支援を通した大学の活動が人材育成と新たな東北創造の可能性に触れました。



## 石巻 \* 学生ボランティア

### 復興支援ボランティアバス、スマイルエンジン始動。

現在、毎週土曜日にやまがた藝術学舎から宮城県沿岸部へ日帰りの復興支援ボランティアバスが運行しています。これは、被災地への継続的な支援を目指す「スマイルトレード10%」プロジェクトの一環として、本学と山形大学とで運営する「スマイルエンジン山形」という取り組み。休日を利用したボランティア活動を、学生や市民が無理なく続けられるように設定しており、参加者は現地でNGOのサポートを受けながらボランティア活動を行っています。

そのスマイルエンジン山形のスタート便として、5月4日、5日の2日間、両大学の学長を団長に石巻での活動を行いました。初日に参加したのは、本学学生、教職員のほか、山形大学の学生などを含めた93名。多くの報道陣もバスの出発を見送り、注目度の高さが窺えました。団長である根岸学長は「これは復興への長い道のりの第一歩。学生には被災地の状況を自分の目で見て、何ができるのか、どういう人間になりたいのかを考えてほしい」と意気込みを語りました。石巻市に着いた参加者は15人程の6つの班に分かれ、大街道地区にある民家の側溝に溜まった津波の泥のかき出しを実施。今回の地区は、道路の端に積まれた泥だらけの家具や畳などに津波の痕跡は見えてとれるものの、民家が平然と建ち並び、表面上は被害が少ないように見受けられる地区でした。しかし、住民の方にお話を聞くと「この辺は大規模半壊地域



リーダーの指示に沿って懸命に作業する参加者たち。活動終了後はグループごとに活動の振り返りを行い、何を感じたか、生き方をどう変えるかを考え話し合う時間に。各リーダーが体験をレポートにまとめウェブサイトにアップしている。

### 東日本大震災に伴う被害状況と、学費などの減免について。

東日本大震災で被災された皆様、また福島第一原発事故により避難生活を余儀なくされている皆様に、心からお見舞いを申し上げます。本学では東日本大震災に伴い、平成23年度入学者及び在学生に対して、被害状況に応じて入学金の免除及び授業料の減免などの措置を講じました。学費支弁者の死亡・行方不明の場合、自己所有の自宅家屋が全壊の場合、福島第一原発から半径20km圏内の警戒区域/計画的避難区域に自己

で、家の中にはまだヘドロがあります。おそらく断熱材にも付いているので業者に見てもらわないと腐る可能性があるのですが、そこまで手が回りません。やらなければならないことが山積みなので、少しでも手伝ってもらえるのはありがたいです」と、感謝の言葉をかけられました。美術科日本画コース2年の鳥越さんは「貧乏学生な自分は募金できる額も限られています。今の自分が持っているのは身体と時間だ、と気づいたら、考えるより先に動いていました。側溝の清掃は小さなことだけどやってみると大変ですね。被災地の生活レベルを少しでも良い状態にしたいです」と、スコップを握りしめながら語ってくれました。

大街道地区の南側、石巻湾に近い地区は、津波の爪痕がより生々しく残されていました。どの家の壁にも地面から2~3mのあたりに真横に汚れがつき、海側の窓や玄関、壁がごっそりとなくなっている光景と、側溝からあふれる汚泥の匂いと虫は、復興が始まったばかりの兆しであり、より多くのボランティアの手が必要であることを訴えているようでした。岩手県出身で福興会議代表の田中さんは今回の活動を通して「ただ漠然と作業をしていると、実際に被災者の方の役に立っているのかわからなくなります。現地の方とのコミュニケーションも大切なんだと感じました」と、被災地復興に向けてさらに機能的で本質的な活動を続けることに意欲を示しました。



### SmileTrade10%

日常の色々な時間を少しずつ集めることで、継続したサポートを無理なく続けることが可能になります。今の日常が未来の日常を助け、創り上げるようになります。アイデアや工夫も含めた、日常生活の中にある様々なものごとを見直して、東北の復興活動に活かしていくことが、スマイルトレード10%の目標。その一環として、スマイルエンジンを運行しています。



### 福興会議

大震災を経験した私たちが、3.11以後に改めて追い求める「幸福」の新しいカタチを、被災者と共に考え、デザインし、分かち合うことを目標とした、本学と山形大学の学生・教職員有志らによる東北復興支援チーム。ワークショップ・イベントなどを通して、被災地や避難所での「日常性の回復」、穏やかな「情緒性の回復」のサポートや、被災地での学生ボランティア活動の継続、3.11の記録と発信などを主な活動としています。  
URL: <http://www.tuad.ac.jp/fukukou/>



### 福興ライブ

「福興会議」の活動支援を目的とした特別講義が、「福興ライブ」。その第一段として、5月12日にチャリティライブを開催。(福興)の活動と東北の未来をテーマとした特別講義と、De De Mouse氏、七尾旅人氏をゲストに迎えてのライブに、400名を超える方にご来場いただきました。本学とSuperDelux(東京)とのインターネット配信視聴者は達6,000人以上。総額610,712円の支援金を、福興会議の活動支援金として寄付いただきました。

### やまがた芸術学舎 YAMAGATA INSTITUTE OF THE ARTS

やまがた芸術学舎は、東日本大震災後の(新しい社会、新しい東北)を創造する「東北復興支援機構TRSO」と、山形の産業界と大学の連携窓口「東北芸術工科大学共創デザイン室」で構成されています。

URL: <http://www.tuad.ac.jp/y-gakusha/>

(東北復興支援機構TRSO)  
東日本大震災後の“新しい社会、新しい東北”を創造するプロジェクトルームです。芸術家やデザイナーによる東北復興アクションを支援・推進し、その計画や成果を常設展示するとともに、復興支援を考える市民・学生対象の講演会やワークショップ、また、被災地でのボランティア活動をコーディネートしています。

(東北芸術工科大学 共創デザイン室)  
山形の製造業・建設業・農業・観光などの産業振興を、東北芸術工科大学のデザイン力・企画力・若い力でサポートする、産業界と大学の連携窓口兼ショールームです。マネジメントスキルを持った大学職員が常駐し、訪れた市民とともに、デザインによる産業振興について語り合い、行動する地域デザインの実験室的な位置づけです。お気軽にお越しください。

## 亀や \* 建築・環境デザイン

リノベーションプロジェクトがついに完了。



左から、亀や社長の阿部さん、山本さん、OBの黒田さん、橋田さん、上野さん、工藤さん、副手で実施設計を担当した古川さん。



海が見える窓側は木のぬくもりが心地よい小上がりになっていて畳敷きのスペースもあり、ごろりと横になることもできます。美しい夕日が望めるかどうかは宿泊した日の天気次第。主室の横には、造り付けのデスクがあるプライベート空間も。収納スペースも確保してあります。写真左から、別角度からの客室、浴室、書斎、HOURAIのロゴマーク。



### 建築・環境デザイン学科

建築やインテリア空間、それを取り巻く街、自然や景観を学びます。山形の豊かな自然や伝統、都市の規模を活かし、未来のライフスタイルを考える際に求められる暮らし方や建築のデザイン、環境問題なども総合的に学修します。

新たな感性で演出された、究極の“贅沢”由緒ある旅館の最上フロアに登場です。

大学院建築デザイン領域と建築・環境デザイン学科の学生が中心に携わった、鶴岡市湯野浜の老舗旅館「亀や」の最上階フロアのリノベーション（改修）が5月に完了しました。手がけた部屋は「クラウドルーム（雲の部屋）」と名付けられた眺望の良いVIPルーム。入り口の暗い空間から主室へ足を踏み入れた瞬間に、鮮やかに開ける視界には窓いっぱい広がる日本海と空が飛び込んで、誰もが「あっ」と息をとむ浮遊感があります。大学院在籍中に基本設計を担当し、その日初めて部屋に入った修生の黒田さんは「自分の設計なので頭では分かっていたはずなのに、実際完成した部屋に入ると驚いてしまいました。自分の術中に自分ではまっぴりしてしまいましたね」と苦笑い。

部屋のコンセプトは“雲の上にいるような気分で日常から解放される空間”です。最大5人が宿泊できる広い部屋は、角を無くすために、ベッドから壁面、天井までが、檜材で作られたひと続きの緩やかな曲面で被われ、セミダブル3つ分のベッドには特注の白いクッションをいくつも設置。もたれかかると包み込まれるような感覚でリラックスした気分になります。「ベッドの一番奥から見える景色、特に光の入り方、水平線に見える位置に気を配りました。何もしいない贅沢を味わってもらえたら」という大学院1年の工藤さん。部屋の雰囲気とは対照的に暗い色調で統一された浴室には、海が見渡せる檜の浴槽と、

温めのお湯で半身浴ができる浴槽の2つ。「何度も原寸大の模型を作り、実際の気持ちよさをシミュレーションしました」という大学院2年山本さんの成果あって特徴的なバスルームになりました。「アイデア出しから施工まで一連のプロセスを体験することが勉強になりました。旅館、店舗設計に興味が出てきましたね」という同じく大学院2年の橋田さん。設計する上で大切なお客様の目線や旅館運営に関わることで考え、知ることができたのは亀や社長・阿部公和さんとの話し合った経験が大きく影響しているそうです。阿部さんは酒田市にある大学で社会学を学び、地方の大学が果たすべき責務について考えた時に、大学の力を地域に活かしていくことを、企業も利用していくべきだと思い、芸工大に声をかけました。「感心したのは、窓際にある構造上外せない柱を堂々と見せる潔さと、HOURAIのマークのデザイン。亀は上から見るものだと思っていたから正面から捉えているのは衝撃でした」。デザインを担当したグラフィックデザイン学科4年の上野さんは「学生の身ではなかなか感じることはない“高級感”をいかに演出するか苦労しました。実際に亀やさんに宿泊し、豪華なお食事やおもてなしを受ける機会を作ってくれた社長に感謝です」と振り返りました。細い線を使い繊細で滑らかな高級感を醸し出すHOURAIのマークは、エレベーターやフロアの壁、グッズにも使用されています。 **WEB**



白鷹町出身の画家、梅津五郎の作品を展示するギャラリーに、梅津五郎が実際に使った画材や椅子を展示設置する宮本さん。

## OB \* 教授

本質に切り込んでいく  
修復士の仕事、教授の姿。  
多様な価値観を育んだ  
学びの時間。



多様な価値観を認める許容量を増やしてってください。完璧である必要はないぞ。あと、白鷹町に背を埋める覚悟でやってください。



多種多様な美術品の修復が行われている研究室で、学生と楽しく厳しく指導にあたっている藤原教授。

美術品・文化財の修復を学び、学芸員へ。白鷹町を、より文化的で刺激的な町に。

2009年10月に白鷹町にオープンした文化交流センター「あゆむ」で、展示会の企画や設営全般を行っている学芸員の宮本晶朗さん。東京出身で早稲田大学2年の時に、美術史・文化財保存修復学科に編入した本学のOBです。在学中は、恩師である藤原徹教授について全国各地の美術館をまわり、アシスタントをしながら様々な美術品の修復を学んできたという想いから学芸員の道を選びました。「学生時代に実際的美術品に触れられたことは、すごく役に立っています。作品を動かす際にどうしたらいいか取り扱い方を知っていることや、藤原先生と一緒にいった美術館で、他の学芸員さんと話す機会が多くありネットワークが築けたことも財産になってますね」という宮本さん。現在は、「あゆむ」で美術に興味を持っている有志の事業会員と話し合いながら企画を進め、白鷹町の多くの人に美術、芸術、文化に興味を持ってもら

おうと意欲を燃やしています。「子どもから高齢の方まで、いろいろな価値観に触れる機会と若手アーティストの活躍の場を増やしていきたいです」と、フラットにつながるギャラリー、ホール、多目的教室を活かした、親しみやすく身近でありながら刺激を与えてくれるようなイベントを企画中。7月30日～8月26日には「山形若手アーティスト展」と題し、芸工大OB村上滋郎による展覧会「ノスタルポップブック」が開催されます。宮本さんが学生時代に修復を学び身につけた知識と技術、経験した美術作品や人との出会いが、白鷹町という場所で文化交流の種となって育まれています。

宮本晶朗 Akira Miyamoto  
白鷹町文化交流センター「あゆむ」学芸員。東京都出身。2003年、美術史・文化財保存修復学科2年次に編入学。卒業後は同大学院へ進み2008年3月に修了。収蔵作品の管理、イベントの企画・運営など幅広い業務を担当。自身が企画したコンテンツホルダーの舞台に立った経験がある。



### 美術史・文化財保存修復学科

人間が作り上げてきた芸術作品を理解し、文化全体の知識を学ぶ美術史の分野、作品の状態を見極め、修復方法と考え方を学ぶ立体修復と平面修復の分野、文化財の保存方法の研究を行う保存科学の4分野に取組むことができます。

自分で自分の土壌を広げる姿勢が印象的。今後のさらなる飛躍を期待しています。

早稲田大学で美術史を学んでいた宮本さんが、より直接的に美術に関わるために編入してきた美術史・文化財保存修復学科で指導にあたっていたのは、プロの修復士としても活躍している藤原徹教授です。宮本さんの印象をたずねると「ひとことで言うとなかなか『変なやつ』。落ち着きがなく、人の言う事を聞かなくて（笑）。でも目的を持ってここに入ってきたから、他の学生にはない、淡々と自分で自分の土壌を広げていく姿勢がありました。それは今も変わっていないんじゃないかな」と、答えました。他の大学で学んできた経験は、お酒の席でも発揮していたそうで「ちょっと芸工大生にはない“ばんから”みたいな雰囲気があったね。他の学生の刺激になっていたかもしれない」と、笑いながら当時を振り返ります。藤原教授は、「美術品・文化財の修復は作品に寄り添い守ること。また、それぞれのスペシャリスト、作家、学芸員と連携していく仕事

で、一人ではできません。分からないことがあったらいろんな人の力を借りないといけないし、そうすることが自分の道になるんです」と、修復士の仕事について語ります。その精神性は、学芸員となった宮本さんがネットワークの重要性を感じていることや町内の人たちと協調していく姿勢と重なり、藤原教授の姿を見て受け継ぎ学んできたことが窺えます。学ぶということに関して、すぐに答えを教えるのではなく、深い洞察を持って真実が見えるまでじっくりと見ることを大切にしているという藤原教授。宮本さんが様々な価値観を理解して受け入れながら、独自の答えを出すことを期待しています。

藤原徹 Toru Fujiwara  
美術史・文化財保存修復学科教授。広島県出身。東京造形大学卒業。スラソツール美術学校修士課程修了。東京国立博物館、国立西洋美術館の客員研究員にも従事し、彫刻の展覧会コンパクターとしても活躍。西洋・日本の立体作品の保存修復に数多く携わりながら、後継者の指導にあたっている。

# NEWS & TOPICS



## 2 福島第一原子力発電所事故に伴う学費減免などの特別措置

本学では、福島第一原子力発電所事故に伴う避難措置により、在学生の方々がお勉学の機会を失わないよう、下記の措置を講じることに致しました。詳しくは、教学事務室へお問合せください。  
対象者：本学の在学生で、福島第一原子力発電所から半径20km圏内の「警戒区域」及び「計画的避難区域」に自己所有の自宅があり、学費支弁者の方が避難生活を送られている場合。  
また東日本大震災に伴い、自己所有の自宅の全半壊、学費支弁者の死亡または行方不明による授業料等の減免措置の申込み期限を、7月30日まで延長致しました。教学事務室へお問合せください。



## 現代美術の若手登竜門、VOCA展2011に阿部岳史さんが出品

彫刻コース卒業生の阿部岳史さんが、3月14日～30日に上野の森美術館で開催された現代美術の展望「VOCA展2011」新しい平面の作家たち」に出品。今回で18回目となる本展は、全国の美術館学芸員、ジャーナリストなどが若手作家を推薦し、平面作品を紹介する現代美術界の登竜門となっています。



## 誰もが1日芸工大生 体験型オープンキャンパス2011

全国各地からの高校生や受験生が、在学生・教員と一緒に1日芸工大生を体験するオープンキャンパスを5月29日に開催。約540名の高校生・受験生の方にご来場いただきました。在学生の授業課題や作品展示、アトリエや工房の公開、学生や先生との交流、キャンパスツアー、模擬授業やワークショップなどのさまざまな企画を実施しました。次回は7月30日(土)、31日(日)に開催予定です。



## 街で目をひく黄色と青のバス 芸工大生専用バスがリニューアル

学生の通学支援として6年間運行してきた循環バスをリニューアル。山形の街を元気にするようなスクールカラーの鮮やかな青色と、その補色の黄色を採用したグラフィックを施しました。また、バスの走行位置を携帯電話で確認できるシステムを導入しました。◎ラッピングデザイン：小板橋恭希(映像学科卒業生)



## 子どもたちが鑑賞「THE 猿まわし-伝統と現代 輪の中はおとぎの国」

東北文化研究センターでは、山口県光市無形民俗文化財(周防猿まわし)をお招きし、「THE 猿まわし-伝統と現代 輪の中はおとぎの国」を6月1日に開催。日本の伝統芸能でも、能や狂言、歌舞伎に並んで最も古い動物芸を披露し、市内の幼稚園などの子供を含む約1,200名が鑑賞しました。◎周防猿まわしの会：チョロ松(芸猿)／五郎(芸人)、ビッグ(芸猿)／バナナ(芸人)



## 「さわのはな」の田植えを実施 農業を再生する奨学米プロジェクト

企画構想学科 平林千春研究室が「さわのはな倶楽部」(長井市)と提携し、「奨学米プロジェクト」をスタート。5月22日には「奨学米プロジェクト田植え」を行い、希少価値のある、さわのはなの苗を植えました。今後、日本の農業の再生を目的とした独自の「奨学米構想」として育てたお米をブランド化し、全国への浸透・普及を目指します。

## 3 テキスタイルで表現する世界観 「時の種子」展

テキスタイルコースの在学生、卒業生6名がそれぞれの世界観を表現する展覧会「(時の種子)-Seeds of Time and Arts」展をgallery COEXIST(東京)で6月15日～7月2日に開催しました。大地に紅花の種を蒔き、染料づくりを通じて学生が豊かな表現力を養い、多様な作品を発表しました。  
出品者：坂内まゆ子(院2年)／湯澤亜沙子(院2年)／今野真莉絵(卒業生)／須藤ありさ(院1年)／池谷佳恵(院2年)／田中可也子(院2年)  
主催：gallery COEXIST(ギャラリア コエジスト)  
URL：http://www.coexist-art.com



## 花東で思いを伝えることを日常に 仙台から発信する新習慣「花告」

大学院仙台スクールでは、仙台市の花東需要が全国2位であることにちなみ、花で思いを伝える新習慣「花告」を提案しています。震災を受け、子どもを元気づけるためのチャリティイベント「花を飾って元気になるろ！」を、4月29日～30日に仙台市のおまち商店街で開催。原価分などを差し引いた139,980円を(あしなが育英会)(セーブ・ザ・チルドレン)に寄付しました。◎担当教員：平林千春(仙台スクール)／企画構想学科教授 ◎参加学生：阪野正義(院1年)／福田亮佑(院2年)／馬飼野華恵(卒業生)



## ガウディ建築とスペインの風土を 緋く公開講座を開講

美術史・文化財保存修復学科では、公開講座「サグラダ・ファミリア聖堂ーガウディのロマンとその実現ー」を7月16日に開催。ガウディ研究の第一人者、鳥居徳敏氏(神奈川大学教授)を講師に招き、今も建設中のサグラダ・ファミリアの彫刻的で創造性豊かな魅力、ガウディ建築とスペインの風土や伝統との関わりを解説いただきました。



## デザセン発！ iPhone App Storeアプリ「ネガボ辞典」がついに登場

昨年開催したデザセン2010で第三位を受賞した、北海道札幌岸高等学校チームの提案「ネガボ辞典」が、iPhone、iPod touch用のアプリケーションとして実際に開発され、「iTunesのApp Storeでダウンロードできるようになりました。ネガティブな言葉をポジティブな言葉に変換してくれる辞書アプリ。例えば「八方美人」と言われて傷ついたときに、ネガボ辞典に入力してみると「フレンドリー」「愛想がいい」「気配り上手」と変換されて表示されます。ネガボ辞典URL：http://d-life.pl.bindsite.jp/negapo/ デザセンURL：http://www.tuad.ac.jp/hidechamp/

## 人気講義のエッセンスを凝縮！ 「しかけ人たちの企画術」発刊。

2010年10月～12月に東京企画構想学会で開催した「企画10人セミナー」のエッセンスを凝縮した一冊「しかけ人たちの企画術」を発刊。客員教授の河尻亨一氏を司会に、学科長の小山薫堂氏、箭内道彦氏、後藤繁雄氏、奥田政行氏など国内外で活躍する(しかけ人)が企画術を講義した内容を収録しています。◎発行人：株式会社インプレスジャパニ ◎価格：1,680円+税

# NEWS & TOPICS



## 14 山形市総合スポーツセンターに 「避難所間仕切りシステム」を提供

東日本大震災の避難所でのプライバシー確保の一助として、「避難所簡易間仕切りシステム」を設置する共同プロジェクトを展開。紙パイプの骨組みと開閉できる布カーテンで空間を分ける間仕切りを制作し、避難所に設置しています。建築家の坂茂氏が考案し、株式会社シムルター(代表取締役 木村一義/山形市松栄)が提供。和田菜穂子准教授の呼びかけで、本学学生、慶應義塾大学の学生ボランティアを中心に設置活動を続けており、本学学生は5月3日までに、合計16か所に設置しました。 URL：http://www.shigerubanarchitects.com/



## 15 東日本大震災で被災した文化財の応急処置の実施について

文化財保存修復研究センターでは、東日本大震災で被災した文化財の応急処置を進めています。文化庁からの協力依頼もあり、2011年5月までに宮城県の高校や美術館、岩手県の博物館などから5,000点弱を引き受けています。文化財の種類は東洋絵画、立体美術作品、歴史的な研究資料や書籍類など。作業は教員の指導のもと、本学の学生を中心に、有志のボランティアが対応。処置が終わったものは保管庫などで一定期間お預かりし、現地の復旧を待って返還されます。

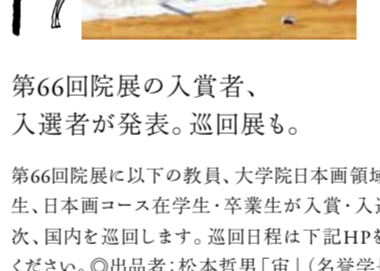
## 16 東北芸術工科大学 保護者会「懇談会」

大学教員と在学生保護者との懇談会を6月11日に開催しました。在学生生活や学業の成果、就職指導などの情報のほか、株式会社リクルート東北支社からゲスト講師をお招きし、「今、保護者にできること」をテーマに、震災後の進路選択に取り組む心構えや応援について講演を行いました。



## 19 Young Art Taipei 2011でも高い評価 佐藤未希さんが出品

大学院博士後期課程洋画領域1年の佐藤未希さんが、台湾で5月12日～15日に開催されたアートフェア「Young Art Taipei 2011」に出品。また6月11日～24日にはギャラリー椿(東京)で個展も開催し、翌週の26日～29日に開催されたチャリティーオークション展にも出品。作品は高い評価を得ています。



## 17 第66回院展の入賞者、入選者が発表。巡回展も。

第66回院展以下に以下の教員、大学院日本画領域修了生、日本画コース在学生・卒業生が入賞・入選。順次、国内を巡回します。巡回日程は下記HPをご覧ください。◎出品者：松本哲男「宙」(名誉学長)／香場三雄「歴史」(准教授)奨励賞／谷善徳「砂漠の船」(准教授)奨励賞／古田和子「春待」(学部3年)／日向はり「考え事」(院1年生・写真)／阿良山早苗「たからもの」(卒業生)／足立香織「ハルカゼ」(卒業生) ※初入選／鬼塚堅太「宮城・四十八滝」(以下 修了生)／高橋誠「かの地へ」／高橋一徳「這うる」／千種伸宜「星影の道」／竹田陽子「つれづれ」 URL：http://www.nihonbijutsuin.or.jp/



## 20 “sora”をコンセプトに手がけた 巣鴨信用金庫志村支店が完成

エマニュエル・ムホー プログラクトデザイン学科准教授が建築設計からインテリアデザインまでを手掛けた巣鴨信用金庫志村支店が、新座支店、常盤台支店に続き完成。「sora」をコンセプトに、訪れる人が自然を感じリフレッシュできるような空間づくりを目指しました。 URL：http://www.emmanuel.jp/



## 18 ストーリーや世界観を楽しむグラフィック 「GRAPHIC PRESENTATION 2011」

グラフィックデザイン学科3、4年生の恒例となっている合同展、「GRAPHIC PRESENTATION 2011」を6月10日～23日に本館7Fギャラリーで開催しました。イラストレーション、ポスター、写真、パッケージなどの個性豊かな作品、84名による約200点を「舞台演目」のように展示。制作から完成までの「ストーリー」や「世界観」も披露した展示となりました。 URL：http://graphic2011presentation.tumblr.com/



## 21 第16回東北芸術工科大学大学院、第20回東北芸術工科大学入学式

第16回東北芸術工科大学大学院・第20回東北芸術工科大学入学式を4月24日に執り行い、新入生、保護者、来賓を含め1,500名の方が参列。東日本大震災を受け、2週間繰り下げての開催となりました。入学の辞：芸術学部文芸学科入学生 荒川匠 鶴岡中央高校出身

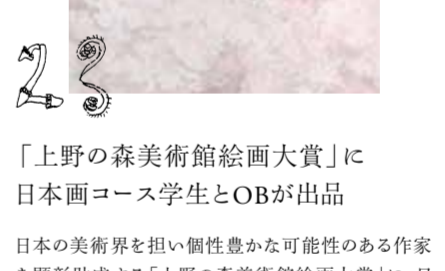
## 22 9回目の凱旋企画展 「SAKURAMASU 2011」

海で成長し桜の季節に川を遡るヤマメを山形では「サクラマス」と呼びます。5月28日～6月29日に山形デザインハウス(山形市)で開催された「SAKURAMASU 2011」展は、その名を冠に9回目を迎える本学出身のクリエイター達の凱旋企画展。再び山形の地に降り立った卒業生49名の作家達が、生活を豊かに彩る作品を出品しました。主催：サクラマス2009運営委員会 共催：NPO法人山形デザインネットワーク URL：http://blog.sakuramasu.jp/



## 25 テキスタイルコース新4年生展 「儀礼の布-6つの物語」

テキスタイルコースでは4年生6名による「儀礼の布-6つの物語」展を本学スタジオ144で6月1日～4日に開催。織物や染物の色柄に意味が込められてきたテキスタイルとして、6人が「ストライプ」にまつわるストーリーを表現した5mの織り作品と、「儀礼」をテーマにした5mの染め作品を展示しました。



## 23 「上野の森美術館絵画大賞」に 日本画コース学生とOBが出品

日本の美術界を担い個性豊かな可能性のある作家を顕彰し成する「上野の森美術館絵画大賞」に、日本画コース在学生と卒業生の4名が出品し、4月26日～5月8日での上野の森美術館での展示のほか、九州、秀作、関西展と巡回しました。◎出品者：須藤順子「霞城の桜」(学部4年・写真)／久保木桂子「あけぼの臘々として」(院2年)／千々木隆造「密林祈願」(卒業生)／小石理恵「夢路」(卒業生) URL：http://www.ueno-mori.org/

## 26 自然災害に対応した 縄紋人の知恵と精神性

東北文化研究センター公開講座「自然災害と縄紋人ー自然への祈り」を6月21日に開催しました。人類史の中でも特に自然に依存していた縄紋人が、自然の変化にどう対応していたのか、「災害考古学」の可能性を視野に入れ、考古学者でもある安斎正人東北文化研究センター教授が語りました。

## 27 第37回東京春季創画展で 日本画コースOBが入選

日本画コース卒業生の柿崎彩美さんが、第37回春季創画展に230点の応募作品の中から入選。2月24日～3月1日に日本橋高島屋で開催された東京展に出品しました。



## 24 上山市を走るヒメサユリのバス スクールバスに学生のデザインが採用

上山市教育委員会が巡回バスのグラフィックデザインを公募し、日本画コースの学生たちの案が採用されました。このバスは上山市内の小中学校統合に伴い、山間地域の児童送迎に使用されるもの。上山市のシンボルの石造りの中山橋や、ヒメサユリの花、名産の干し柿などの絵が描かれ、好評を得ています。◎受賞者：藤井奈津美(学部4年)／辻ゆかり(学部4年)／久松知子(学部2年)◎指導教員：谷善徳(美術科准教授)



## 28 プロダクションI.Gの石川光久氏 講演会「アニメ産業の未来」

高質のアニメーション製作で知られるプロダクションI.Gの石川光久氏をお招きした講演会「アニメ産業の未来」を6月10日に大学院仙台スクールで開催。講演会ではコンテンツ産業の現状と今後の発展についての最新観を講演。同社は、ベストセラー『もしドラ』のテレビアニメ化やキャラクターの版權管理など、様々なコンテンツ事業を展開しています。



「E&B」では、在学生や卒業生の方からのイベントなどの告知や、受賞情報をお待ちしております。広報室へお気軽にご連絡ください。また、日程や掲載内容は変更になる場合がありますので、HPなどで事前にご確認願います。

共催：株式会社竹中工務店・ギャラリーネットワーク

**8.20→10.2**  
**中之条ビエンナーレ2011に出品**  
 彫刻コース卒業生の元木孝美さん、外丸治さん、洋画コース卒業生の東瀬戸あゆみさんが「中之条ビエンナーレ2011」に出品します。是非お越しください。  
 会期：8月20日（土）～10月2日（日）  
 会場：群馬県中之条町 町内50か所  
 URL：<http://nakanajo-biennale/>

**9.24→9.25**  
  
**今年も楽しい2日間、芸工祭2011**  
 学生が様々なイベントや作品を準備して、学生自身も楽しみながら広く皆様をお迎えする東北芸術工科大学 大学祭「芸工祭2011」を、今年も2日間開催します。模擬店や作品展、サークルパフォーマンスなどイベントも盛り沢山です。  
 日時：9月24日（土）、25日（日）10:00～20:00  
 会場：東北芸術工科大学キャンパス

**9.17・10.1**  
**保護者会懇談会、仙台・東京会場**  
 担当教員や事務局と在学生保護者の方との交流、意見交換の場「保護者会懇談会」を開催します。  
 ●仙台会場 / 日時：9月17日（土）13:00～  
 会場：仙台アエル（仙台市青葉区中央1-3-1）  
 ●東京会場 / 日時：10月1日（土）13:00～  
 会場：外苑キャンパス（東京都港区北青山1-7-15）

**10.2**  
**延期となっていた平成22年度卒業式を挙行**  
 震災のため延期となっていた平成22年度卒業・修了式と、平成23年度前期卒業・修了式を下記の日程で執り行います。  
 日時：10月2日（日）13:00～14:30  
 会場：東北芸術工科大学 体育館

**10.5→10.12**  
**秋の彫刻展。表現する「かたち」**  
 美術科彫刻コースの学生有志が、石、木、鉄、石膏などを使った彫刻作品20点を展示します。  
 日時：10月5日（水）～12日（水）9:00～17:00  
 （最終日は12:00まで）  
 会場：悠御の丘「悠御館」

**10.30**  
**白熱するプレゼン！ デザイン決勝大会**  
 「明日の社会を見つめ、明日の世界を創造する」高校生の視点で、社会や暮らしの中から問題や課題を見つけ、その解決方法を提案するデザイン。第18回デザイン決勝大会（最終審査）を開催します。高校生の目線で取り切った社会への提案を、お見逃し無し！  
 日時：10月30日（日）12:30～17:00頃まで  
 会場：東北芸術工科大学本館201講義室

# EVENT SCHEDULE

芸工大 \* You

## Every Saturday



**日帰りボランティアパスが運行**  
 本紙5ページでも紹介しているプロジェクト“SmileTrade10%”の一環として、日帰りボランティアパス「スマイルエンジン山形」が継続活動中です。毎週土曜日、やまがた芸術学舎を集合場所に運行しています。  
 お申込み・お問合せ：東北復興支援機構 TRSO  
 TEL: 023-627-2218  
 URL: <http://www.smiletrade10.com/engine/>

## 6.18→9.19



**荒井良二と行くワークショップツアー**  
 東北復興支援機構TRSOでは、東日本大震災の復興支援プロジェクトとしてワークショップ・ツアーを開催中。宮城県沿岸部の4つの街「塩竈・石巻・多賀城・仙台」を巡りながら、出会った人々のことばをもとに、即興的に描くワークショップツアーです。  
 ●vol.1: 6月18日（土）ビルド・フルーガス（塩竈／終了）  
 ●vol.2: 8月27日（土）石巻市立渡波小学校校舎（石巻／予定）  
 ●vol.3: 8月28日（日）調整中  
 ●vol.4: 9月18日（日）調整中  
 ●vol.5: 9月19日（月・祝）仙台演劇場10-BOX  
 参加対象：vol.1～4は、開場地域の方限定。vol.5は広く市外の方も参加可能。  
 お問合せ：東北復興支援機構 TRSO  
 TEL: 023-627-2218

## 6.24→7.24

**復興へ一歩ずつ、アートオークション**  
 在学生全員の無事が確認でき、建物自体にも被害が無かった本学が、復興への一助として、チャリティー アートオークションを実施します。落札金額の半額を義援金として支援団体へ寄付します。  
 会期：6月24日（金）～7月24日（日）  
 入札方式：サイレントオークション（書面入札）  
 会場：コピス吉祥寺4階 A、B館連絡通路（特設アートギャラリー）  
 お問合せ：東北芸術工科大学 外苑キャンパス  
 TEL: 03-5412-6106

## 7.20

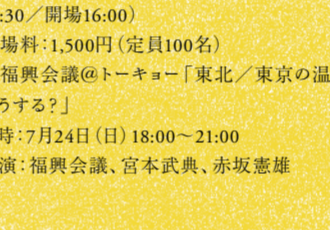
**教授たちが「3.11」について語ります**  
 東日本大震災をうけ、アーティストや環境学者として活躍する教員が、ライフワークと「3.11」について語るリレートークを開催します（第1～3回は終了しました）。  
 第4回テーマ：「自然と向き合う」  
 日時：7月20日（水）17:30～19:00  
 出演：田口洋美（環境学者／歴史遺産学教授）×辻いけ（アーティスト／美術科テキスタイルコース教授）

## 7.22→7.31



**アートの再生と新生のための10日間**  
 アートの再生・アートの新生。本学と、姉妹校の京都造形芸術大学に関わる新鋭アーティストによる展示を開催します。会期中は、アートの再生・アートの新生と題したシンポジウムや、トークイベントなども開催。福興会議での活躍についても展示致します。是非お越しください。詳しくはHPにて。  
 日時：7月22日（金）～31日（日）10:30～16:00  
 会場：3331アーツ千代田  
 URL: <http://emerging-japan.jp/>  
 ●シンポジウム「アートの再生・アートの新生」  
 日時：7月31日（日）14:00～16:00  
 パネラー：浅田彰、五十嵐太郎、石山修武、梶原千葉雅也  
 ●講評会  
 日時：7月23日（土）12:00～14:00  
 ●FUKUKOKU LIVE vol.3  
 日時：7月23日（土）16:30～19:00（整理券配布12:30／開場16:00）  
 入場料：1,500円（定員100名）  
 ●福興会議@トークショー「東北／東京の温度差、どうする？」  
 日時：7月24日（日）18:00～21:00  
 出演：福興会議、宮本武典、赤坂憲雄

## 7.30



**子ども芸大で、夏ならではの体験を**  
 親子で夏ならではの遊びやおやつ作りを楽しみながら、子ども芸大学の1日を体験する、子ども芸術大学オープンキャンパスを開催します。  
 対象：子ども芸大へ入学をご検討の親子（平成19年4月2日～平成21年4月1日生まれ）  
 日時：7月30日（土）10:00～12:00  
 会場：子ども芸大  
 お申込み：7月27日（水）まで

## 7.30・7.31



**まると体験！ オープンキャンパス開催**  
 オープンキャンパスを7月30日・31日（土・日）に開催。入試相談や模擬授業のほか、学科・コースの作品展示や実技体験、学生や先生との交流など沢山の企画をご用意しております。  
 仙台や福島、宇都宮などから大学への無料直通バスも運行します。  
 日時：7月30日（土）・31日（日）10:30～16:00  
 参加対象：高校生・受験希望者、その保護者、高校・予備校教員  
 URL: <http://gs.tuad.ac.jp/oc2011/>

金継ぎとは、陶磁器の割れたものや欠けた部分を漆によって修理する技術。「漆芸講座：金継ぎ」では、このために用意した、わざと欠けさせたぐい飲みや湯のみを銀粉で修理しながら、漆の扱いや修理方法だけでなく、歴史や現在の環境についても学んでいきます。6回の講座では、生漆を付けて乾かす「地固め」、錆の作り方と「下地付け」、水研ぎをして「黒漆を塗る」、という手順を踏んでから、銀粉を「蒔き」、「固め」、「磨き」と丁寧に作業を進めます。金継ぎ講座は人気が高く、今季は定員を大幅に上回る申し込みがあり、アシスタントを増員しての開講となりました。

今回取材したのは、水研ぎをして欠損部分に黒い漆を塗布する、3回目の折り返し地点。講座の雰囲気は明るく和やかで、小林教授や柳橋講師に受講生が次々と声をかけ、作業の確認を密にしながら講座は進んでいきます。作業に入る前には、小林教授が金継ぎの材料である、銀粉、金粉、錫粉、真鍮粉について、それらを使った時に得られる効果、大きさの違い、技法、産地や価格まで丁寧に説明。蒔絵をする時に粉を蒔く、ふるいのような粉筒の使い方を説明するときには、「手全体をぶるぶると震わせるのではなく、中指と薬指を動かして均一に蒔きます。私が学生の時にはよくお箸で練習したもので。皆さんも、夕食の時なんかに練習してくださいね」と笑いを誘いながら、実際にあざやかな手つきで粉を蒔いてみせました。受講生は熱心にメモを取りながら先生の話を聞き、実技では「もうあきらめてください（笑）」と小林教授が声をかけるほど、一生懸命に水研ぎの作業をしている姿があらこちらで見られました。受講者の多くは、昔から金継ぎに興味があ

あったもの実際に習う機会がなかったとのことで、意欲的に講座に参加しています。「カルチャースクールの教室と違って、大学の講義のような本格的な雰囲気最初は少し緊張してしまいましたが、すぐに慣れました。楽しみながらもっと勉強したいです」という方や、我流でやっていた金継ぎの技術を確認するために参加し、骨董市などで気に入った品を見つけては欠損品を自分で修復する楽しみを満喫している方もいます。中には、「家にある古い陶器や漆器の多くが、震災で壊れてしまいました。少しでも自分の力で直して使えるようにしたいです」と、この講座で学んだ技術を震災後の生活の修復へ活かす意欲を持った方も。壊れたものを修理して長く使うことは、日本人の無駄のない生活や精神の表れとして受け継がれるべき習慣であることを改めて感じさせられます。

小林教授は、今回の金継ぎの講座を通して、普段縁遠くなりがちな漆を身近に感じ生活に活かして欲しいと考えています。「陶器の修理は要望が多いわりに、自分で簡単に修理できることは知られていません。漆は下地を選ばず、木の他にも金属や皮など様々なものに塗って、幅広く利用できるんですよ」と、日本人が長く親しんできた漆の魅力と可能性を伝えています。「後期はいよいよ金粉を使った金継ぎを行います。今回は練習として銀粉を使ったので本当は銀継ぎなんだよね」講座の和気あいあいとした雰囲気は、受講者の学びたいという積極的な姿勢もさることながら、小林教授の楽しい人柄によるところも大きいようです。受講者の中には壊れた陶器の修理を依頼してくる人も多く、漆を通して情報交換をする学び合いの場となっています。 **[WEB]**



「金継ぎは、簡単に生活に役立つ技術です。せっかくこれだけの人が集まっているので、習って終わりではなく漆の話題でお互いの情報交換ができる場になって欲しいと思っています。蒔絵も絵画とは全く違った世界で楽しいですよ」（小林教授）



「本を見ながら我流で金継ぎをしていましたが本格的にやれて嬉しいです。数十万円もする古伊万里も欠損品だと格安で手に入り、自分で直して使うことができます。自分が手がかけた蕎麦猪口で食べる蕎麦は美味しいですよ」（白鷹町／鈴木さん）



「セロハンテープの半分の薄さで塗ってください」という指示に戸惑いながらも、受講者たちは丁寧に塗っていきます。



真剣な表情で小林教授の手に注目する受講者たち。修理する陶器の傷の部分の水研ぎする工程です。

## 生涯学習プログラム講座レポート

### 漆芸講座：金継ぎ（初級）

漆の技術で陶磁器を修理する [全6回]

# +art

## 東北芸術工科大学 生涯学習プログラム



生漆を精製して鉄分で黒く反応した黒漆を、陶器の傷のところに染み込ませていきます。

## 日常の暮らしの感性をより豊かに。東北芸術工科大学 生涯学習事業

芸術や文化を日常に加えると、きっと心を豊かにし、人生に潤いを与えてくれるはず。東北芸術工科大学の生涯学習事業、「大人のための芸工大」では、アートを身近に感じたい、もっと深く文化を学びたい、そんな皆さんの普段の気軽な動機づけをお待ちしています。

2011年の後期科目は、7月下旬から順次お申込みを開始予定。一般的な絵画や陶芸講座のほか、世界遺産登録となった平泉の歴史と文化に触れる旅や、松本哲男名誉学長

と修験道の霊場羽黒山を描く写生旅行、地域づくりアート塾など、他にはない講座も多数開講予定です。下記窓口まで資料請求をしていただくと、詳しい資料を無料でお送りしております。お気軽にご請求ください。

東北芸術工科大学 生涯学習プログラム  
 〒990-9530 山形市上校田3-4-5  
 TEL: 0120-25-8160（受付：月～金 9:00～18:00 ※土・日・祝休み）  
 FAX: 0120-41-2154 URL: <http://www.tuad.ac.jp/plusart/>